

令和6年度いちごナミハダニの薬剤感受性検定結果

長崎県病害虫防除所

1. 試験目的

いちごの重要害虫であるナミハダニについては、近年多発傾向にある。本虫は一部の薬剤に対する感受性が低下しており、防除対策を立てる上ではその動向に注意する必要がある。

そこで、各種薬剤に対する感受性検定を行い、薬剤抵抗性発達防止への取り組みの参考とする。

2. 検定概要

1) 採集地区および実施日等

市町名	地区		採集日	接種日	処理日	判定日
長崎市	日吉	地床	4月25日	6月10日	6月12日	6月19日
諫早市	飯盛	高設	4月25日	6月5日	6月7日	6月14日
雲仙市	瑞穂	高設	4月24日	5月28日	5月30日	6月6日
雲仙市	国見	高設	4月23日	5月22日	5月24日	5月31日
佐世保市	吉井	高設	5月20日	6月18日	6月20日	6月27日

※採取したハダニをインゲン苗で2～3世代増殖飼育後、検定に供試した。

2) 供試薬剤および供試希釈倍数

薬剤名	有効成分名	成分量 (%)	IRAC	登録 希釈倍数	供試希釈倍数	
					常用濃度	3倍希釈
マイトコーネフロアブル	ビフェナゼート	20	20D	1000	1000	3000
アグリメック	アバメクチン	1.8	6	500～1000	500	1500
グレーシア乳剤	フルキサメタミド	10	30	2000	2000	6000
ダニオーテフロアブル	アシノナピル	20	33	2000	2000	6000

3) 検定方法 リーフディッピング法

インゲン苗の初生葉2×4cmの葉片を切り出し、雌成虫を10～12頭接種し、2日間産卵させた後、雌成虫を取り除き、卵数を計数した。直ちに葉片ごと卵を所定濃度の薬液（展着剤添加）に約10秒間浸漬した。薬剤処理7日後に生存虫数と死亡虫数（ふ化後死亡幼虫および未ふ化卵）を調査し、次式により補正死虫率を算出した。

$$\text{補正死虫率} = \{ (\text{無処理区の生存率} - \text{処理区の生存率}) / \text{無処理区の生存率} \} \times 100$$

3. 結果

1) マイトコーネフロアブル

すべての地区、濃度で補正死虫率は90%以下で、とくに雲仙市（瑞穂）、佐世保市（吉井）の2地区では常用濃度、3倍希釈濃度ともに50%以下であった。

2) アグリメック

諫早市（飯盛）、雲仙市（瑞穂）の3倍希釈濃度では補正死虫率が90%以下で、とくに雲仙市（国見）の常用濃度、3倍希釈濃度では75%以下と低かった。他地区では常用濃度、3倍希釈濃度ともに90%以上で高かった。

3) グレーシア乳剤

諫早市（飯盛）の常用濃度と3倍希釈濃度および佐世保市（吉井）の常用濃度では補正死虫率が90%以上であった。他地区では90%を下回っていたが、とくに雲仙市（瑞穂）では常用濃度、3倍希釈濃度ともに50%以下で低かった。

4) ダニオーテフロアブル

雲仙市（瑞穂）の3倍希釈濃度では補正死虫率が60%以下であった。他地区では常用濃度、3倍希釈濃度ともに90%以上で高かった。

表 令和6年度いちごナミハダニ薬剤感受性検定結果（補正死虫率） (%)

		マイトコーネ フロアブル	アグリメック	グレーシア 乳剤	ダニオーテ フロアブル
長崎市 （日吉）	常用	83.5	99.2	82.6	100.0
	3倍	50.5	98.8	69.2	99.1
諫早市 （飯盛）	常用	54.2	94.0	99.6	100.0
	3倍	26.1	86.2	99.6	100.0
雲仙市 （瑞穂）	常用	42.3	95.3	50.0	95.0
	3倍	11.3	84.4	26.1	56.5
雲仙市 （国見）	常用	75.5	71.2	83.0	99.7
	3倍	7.1	51.2	75.1	99.5
佐世保市 （吉井）	常用	32.7	92.2	96.5	100.0
	3倍	1.3	90.3	89.7	100.0

注) 補正死虫率90%以下はセルを塗りつぶした。

表中の数値はハウス単位で採取したハダニ個体群の結果である。各地域全体の感受性を反映したものではないので留意する。